

さ ば がわ
佐波川総合水系環境整備事業
【事業再評価】（案）

令和6年 10月 3日
国土交通省 中国地方整備局

I. 佐波川総合水系環境整備事業の事業再評価

1. 費用対効果分析実施の判定
2. 佐波川流域の概要
3. 佐波川の河川環境に関する目標
4. 総合水系環境整備事業（全体）の事業箇所と内容
5. 新橋箇所水辺整備の進捗状況と整備効果
6. 今後実施する事業内容
7. 費用便益分析結果
8. 今後の対応方針（案）

1. 費用対効果分析実施の判定

項 目	判 定	
	判 断 根 拠	チェック欄
事業をめぐる社会情勢の変化		
事業の効果や必要性、周辺環境に変化がない	堀箇所周辺の人口に大きな変化がみられる。 (山口県人口移動統計調査: 前回 平成29年6月、今回 令和6年6月) 【新橋箇所水辺整備】 人口 前回 135,766 人 → 今回 130,238 人 <u>4.1%減</u> 世帯数 前回 64,414 世帯 → 今回 66,029 世帯 <u>2.5%増</u> 【堀箇所水辺整備】 人口 前回 5,479 人 → 今回 4,420 人 <u>19.3%減</u> 世帯数 前回 2,593 世帯 → 今回 2,386 世帯 <u>8.0%減</u> 【佐波川自然再生】 人口 前回 24,932 人 → 今回 23,173 人 <u>7.1%減</u> 世帯数 前回 11,308 世帯 → 今回 11,284 世帯 <u>0.2%減</u>	変化なし □ 変化あり ■
前回評価からの事業費・事業期間の増加		増加なし 10%以内増加 10%超え
事業費の増加	前回: 全体事業費8.9億円→今回: 9.2億円 <u>3.4%増</u>	□ ■ □
事業期間の増加	17ヶ年(平成25年(2013年)～令和11年(2029年)) →22ヶ年(平成25年(2013年)～令和16年(2034年)) <u>29.4%増</u>	□ □ ■
前回評価からの費用対効果分析に関する影響要因の変化等		
費用便益分析マニュアルに変更がない	令和6年4月にマニュアルが改定されたが、B/C算定方法に変更はない。	変化なし ■ 変化あり □
需要量等の変化等(需要量等の減少が10%以内)	【新橋箇所水辺整備】 世帯数 前回 64,414世帯 → 今回 66,029世帯 <u>2.5%増</u> 【堀箇所水辺整備】 世帯数 前回 2,593 世帯 → 今回 2,386 世帯 <u>8.0%減</u> 【佐波川自然再生】 世帯数 前回 11,308世帯 → 今回 11,284世帯 <u>0.2%減</u>	10%以下 ■ 10%越え □
下記のうち、一方もしくは両方を満たしている ・事業費に比して事業対効果分析に要する費用が大きい ・前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている	直近3ヶ年(令和3年～令和5年)の事業費の平均(63.1百万円)に対する分析費用(5.0百万円) →7.9% > 基準値(1.0%) 前回評価時の感度分析下位ケース 2.6 ≥ 基準値(1.0)	満足している ■ 満足していない □
前回評価で費用対効果分析を実施していない		省略していない □ 省略している ■
その他の事由(重点的な評価が必要な特別な事由)	特になし	—

【費用対効果分析の実施について】

○上記より、社会情勢の変化や費用便益分析に関する要因変化があることから、「国土交通省所管公共事業の再評価実施要領の運用について」(平成25年11月1日付)に基づき、**費用対効果分析を実施する。**

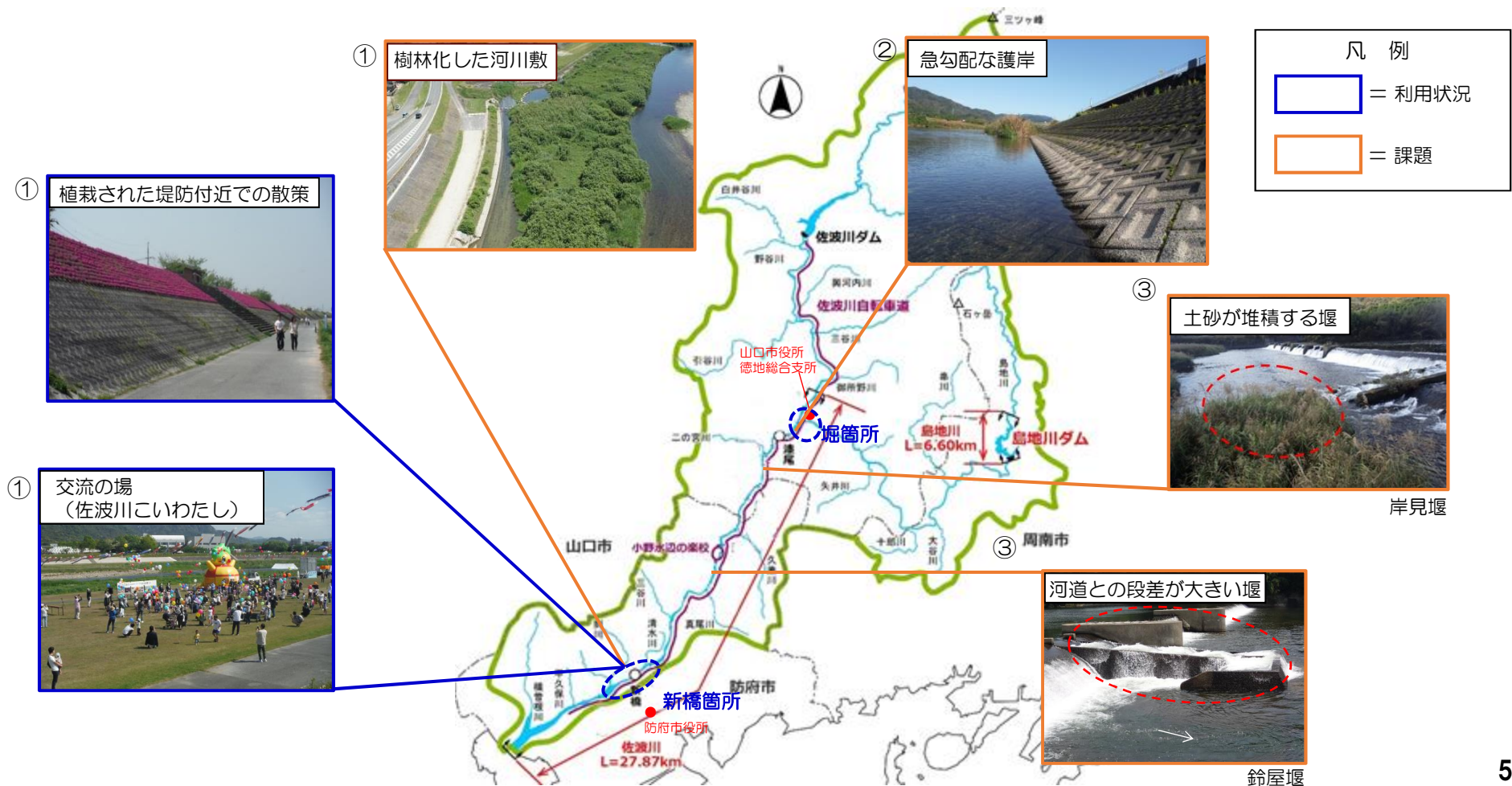
-
- A map of the Seto Inland Sea region in Japan. The map shows the following prefectures: Yamaguchi (山口県), Tokushima (徳島県), Kagawa (高知県), Ehime (愛媛県), Kochi (高知県), and Hiroshima (広島県). The Seto River basin (佐波川流域) is highlighted in blue and green, with a red arrow pointing to it from the label. The surrounding waters are labeled: Japan Sea (日本海) to the north, Seto Inland Sea (瀬戸内海) to the south, and the Pacific Ocean (太平洋) to the east. A north arrow is located in the top left corner.

[illegible]

4

2. 佐波川流域の概要(環境整備事業箇所)

- ①新橋箇所は、河川敷に緑地公園や散策が可能な通路が整備され、堤防には桜や芝桜の植栽がなされ、多くの市民が交流する場となっているが、川の中に木が繁茂し、水面が見えない、安全に水辺に近づける箇所が少ない等の問題が生じている。
- ②堀箇所は、堤防上の河川管理用通路は散策等で多くの市民に利用されている。一方では、水際の護岸が急勾配であり階段等も整備されていないため、安全に水辺に近づけない状況である。
- ③佐波川には、川と海を回遊するアユやハゼ科等の魚類の種(回遊魚)がいるが、直轄管理区間にある堰には、河道との段差が大きい、土砂が堆積する等により回遊魚等の移動に支障が生じている箇所がある。



3. 佐波川の河川環境に関する目標

○河川環境に関する目標（佐波川水系河川整備計画（国管理区間）抜粋）

—川の流れが生み出す良好な環境及び景観を次世代に引き継ぐ—

誰もが自由に安心して快適に利用できる河川空間の保全等を図り、住民と連携しながら、佐波川の川の流れが生み出す良好な環境及び景観を次世代に引き継ぐ。

◆河川空間の形成・維持に関する目標

→ 関係自治体のまちづくりと連携し、住民の方の憩いの場として安心して快適に利用できる河川空間の形成・維持に努める。

◆動植物の生息・生育・繁殖環境の維持・保全に関する目標

→ 佐波川が有する動植物の生息・生育・繁殖環境の維持・保全等に努める。

◆良好な水質の保全に関する目標

→ 関係機関との連携と調整及び地域住民との連携を図りながら、現状の良好な水質の保全に努める。

4. 総合水系環境整備事業(全体)の事業箇所と内容

No	事業名		市	事業年度	事業内容	事業費 (百万円)
①	水辺整備	新橋箇所 水辺整備	防府市	平成25年(2013年)～令和7年(2025年) (実施中)	(国土交通省) 河道整正、高水敷整正、河川管理用通路整備、 法面整正、親水護岸整備 等	395
				平成28年(2016年)～令和7年(2025年) (実施中)	(防府市) 多目的広場整備、トイレ整備、公園整備、 通路照明改良 等	235
②	水辺整備	堀箇所 水辺整備	山口市	令和7年(2025年)～令和9年(2027年) [予定]	(国土交通省) 親水護岸整備、坂路・階段整備、 高水敷整正 等	100 (+4)
③	自然再生	佐波川自然再生 (魚類等の遡上 環境の改善)	山口市、 防府市	計画中	堰の段差解消 等	186 (+26)

※注：（ ）書きは、前回評価時からの増減額

赤字：実施中
緑字：計画中

凡 例	
赤	：実施中
緑	：計画中



事業費合計 916百万円 (+30)

5. 新橋箇所水辺整備の進捗状況と整備効果①

①【水辺整備】 新橋箇所水辺整備（平成25年（2013年）～令和7年（2025年））

- 新橋箇所では、平成25年に防府市が申請したかわまちづくり計画に基づき、事業を実施している。（平成30年計画変更）
- 新橋箇所は防府市街地に近く、高水敷は自転車道や緑地が整備されており、散策等多くの市民に利用されている。また、周辺には小中学校があり、「水生生物観察会」や「水辺安全講座」が行われている。他にも、「佐波川こいわたし」、「カヌー教室」などのイベントが開催されている。かわまちづくり計画に基づく水辺整備により、利用者の利便性・安全性・アクセスの向上により利用者の増加が見込まれる。
- 整備した箇所は多くの方に利用されている。新橋箇所右岸における「令和元年度河川空間利用実態調査結果」では、整備前(平成26年)と比べて約50%利用者数が増加している。
- 令和4年3月に整備については完了しているが、継続的なモニタリングを実施し、今後の利活用の基礎データを収集していく。
- 事業計画は、防府市と関係自治会、地元団体により設置されている「佐波川かわまちづくり協議会」で検討し策定しており、地元の意見を反映したものとなっている。また、整備後の維持管理についても防府市と連携して行うこととしている。

① 現在の利用状況



水生生物観察会



水辺安全講座



佐波川こいわたし



カヌー教室

② 整備完了箇所の利用状況



河川の利用状況

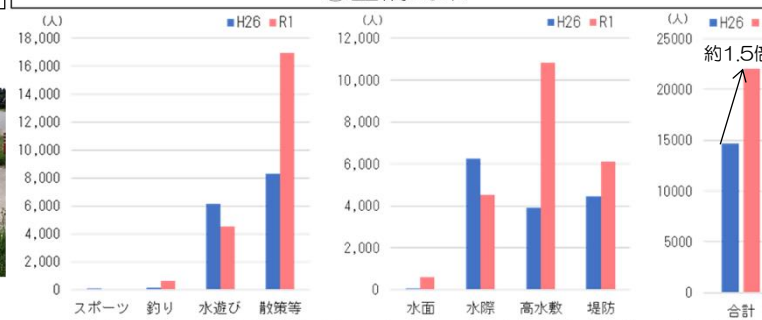


公園の利用状況



高水敷の利用状況

③ 整備効果



河川空間利用実態調査結果 年間利用者数(新橋箇所右岸) 8

5. 新橋箇所水辺整備の進捗状況と整備効果②

①【水辺整備】 新橋箇所水辺整備（平成25年（2013年）～令和7年（2025年））

整備目的：地域住民や子どもたちが安全に水辺に親しめる場や河川環境の保全を学習できる場を創出する。

整備内容：（国）河道整正、高水敷整正、河川管理用通路整備、法面整正、親水護岸整備 等（完了）

（市）多目的広場整備、トイレ整備、公園整備、通路照明改良 等（完了）（河川区域内）

事業進捗の見込み：施設整備については令和4年3月に完了した。整備後は利用状況等についてモニタリング調査を実施しているが、コロナ禍をふまえ引き続き利用実態を把握していく必要があり、更なる利活用を推進することとしており、事業進捗を図る上で支障はない。

新橋箇所水辺整備の位置



【整備前】



・安全に水際に近づいたり、高水敷を利用することができません。



・堤防法面は芝、護岸で整備されていますが、景観の向上が望まれます。

【整備後】



・高水敷に多目的広場、オートキャンプ場を整備し、既存のじゃぶじゃぶ池と併せた水辺の利用促進を図りました。



・堤防法面にシバザクラを植栽し、景観の向上を図りました。

【利用状況】



・高水敷の整備により、多目的広場、オートキャンプ場として利用されています。



・地域間の交流の促進や景観が向上しました。

6. 今後実施する事業内容①

②【水辺整備】 堀箇所水辺整備（令和7年（2025年）～令和9年（2027年））〔予定〕

整備目的：地域住民や子どもたちが安全に水辺に親しめる場や河川環境の保全を学習する場を創出する。

整備内容：（国）親水護岸整備、坂路整備、階段整備、高水敷整正

（市）公園整備、トイレ施設整備、駐車場拡充 等（河川区域外）

事業進捗の見込み：地域の河川利用に資する水辺整備の要望は強く、「とくち佐波川かわまちづくり協議会」によって関係機関や住民等の意見を取り入れながら協力体制を確立し事業を実施していく予定であり、事業進捗を図る上で支障はない。

堀箇所水辺整備の位置



【整備前】

整備前(現在)の状況(島地川合流点)



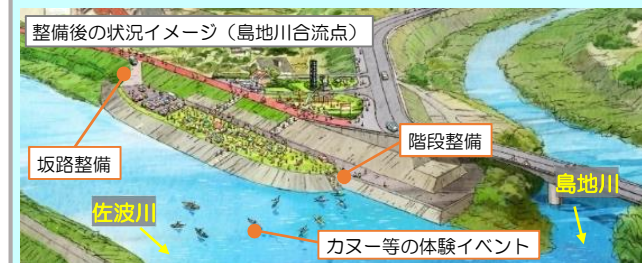
整備前(現在)の状況(出雲合橋付近)



- ・護岸が急勾配で、階段等も整備されていないため、安全に水辺に近づくことができません。

【整備後】

整備後の状況イメージ(島地川合流点)



整備後の状況イメージ(出雲合橋付近)



環境学習・川遊びイメージ



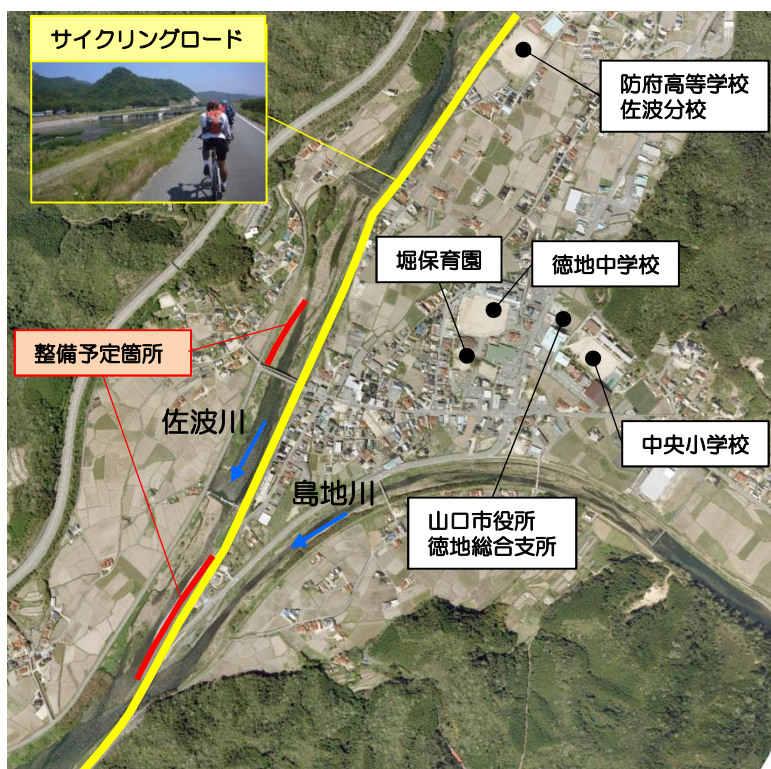
- ・階段、高水敷等の整備により安全に水辺に近づけるようになり、高水敷を利用できるようになります。

6. 今後実施する事業内容②

②【水辺整備】 堀箇所水辺整備（令和7年（2025年）～令和9年（2027年））〔予定〕

- ①堀箇所は山口市徳地の中心部に位置し佐波川と島地川に接している。堤防上の自転車道ではサイクリングや散策等多くの市民に利用されている。また、夏期にはイベント「とくち夏祭り」と花火大会が開催されており多くの来訪者があるほか、周辺の小・中学校が水生生物調査により利用された実績もあり、今後も地域住民の方や子供たちの利用が期待できる箇所でもある。
- ②一方、護岸が急勾配であることと階段等が整備されていないことから、安全に水辺に近づくことができない箇所があり、地元から環境整備に対する意見が寄せられている。
- ③これらのニーズを踏まえて階段、親水護岸等を整備することで、住民や子供たちが環境学習や川遊び、イベント等で安全に利用できるようになる他、利用者の増加が見込まれる。

① 整備予定箇所周辺状況



② 環境整備に対する主な意見（令和6年7月アンケート調査結果）

身近なところでも最近人口が減ったとか若い人が減ったとか思うことが多いので整備しているイベントなどが開催されると人が集まるのでいいなあと思います。	30代女性
佐波川は市民にとってとても身近な川で、環境が改善されることを楽しみにしています。	30代女性
子供たちが安全に水遊びを楽しめるようになるといいと思います。	40代女性
環境整備をすることはいいことだと思います。ただ、災害などで壊れないような物を作ってもらえればと思います。	50代男性
徳地の町の特徴は、佐波川水系とそれを取り囲む山々で成り立っています。その背骨ともいべき佐波川の整備なくして徳地の再生はありえない。川と町の素敵な関係を、歴史や文化、暮らしや特産品などを織り交ぜた町づくりを進めていきましょう！	70代以上男性

② 整備予定箇所の状況



③ 整備後の利用イメージ



6. 今後実施する事業内容③

③【自然再生】 佐波川自然再生（魚類等の遡上環境の改善）（計画中）

整備目的：魚がのぼりやすい川づくりを目指し、魚類等の遡上・降河環境の改善を図る。

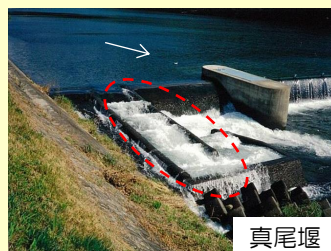
整備内容：堰の段差解消等

事業進捗の見込み：地域住民等から魚類が回遊する環境整備の意見もあり、堰管理者及び漁業関係者と事業実施にあたっての協議、調整を図りながら事業を進めていく予定であり、事業進捗を図る上で支障はない。

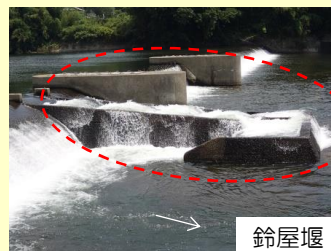
佐波川自然再生の位置



【整備前の状況】



- 水の流れが集中し魚道内の流速が速くなり、魚がのぼりにくくなっています。



- 流量が増えると魚道の横から水が溢れ落ち、魚がのぼりにくくなっています。



- 魚道の直下流に土砂が堆積しているため、魚がのぼりにくくなっています。

【整備後の魚道の例】



イメージ図：榎野川「水辺の小わざ※(山口県土木建築部河川課発行)」より引用

- 既存の魚道沿いに、緩やかな石積み設けることで、低くなった河床からも魚がのぼりやすくなります。
- この石積みによって、広い幅で魚を上流に導けます。

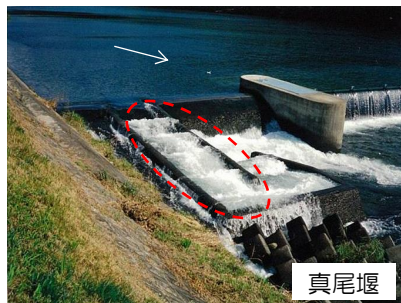
※山口県が学識経験者等と取り組んできた安価で効果的な魚道改善の事例等をガイドラインとしてまとめたもので、これを参考にした魚道が山口県内各地で施工されている。

6. 今後実施する事業内容④

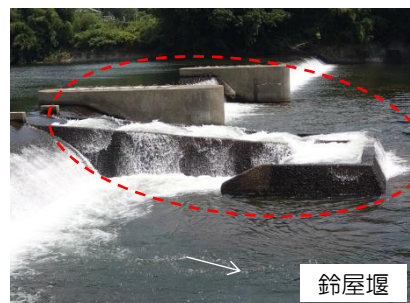
③【自然再生】 佐波川自然再生（魚類等の遡上環境の改善）（計画中）

- ① 佐波川に設置された堰には河道との段差が大きいなど、回遊魚等の移動に支障が生じている箇所もあり、魚類等の良好な生息環境の保全が望まれている。
- ② 河川水辺の国勢調査等で、アユやハゼ科の魚類など、川と海を回遊する種（回遊魚）が確認されている。
- ③ 中でも、佐波川のアユは日本三大天神の防府天満宮においてもアユにまつわる神事（金鮎祭※）があるように、歴史があり、地域との関わりも深いものがある。現在でもアユ釣りのイベントが毎年複数回開催され県内外から釣り人が来訪する他、幼稚園児による稚魚の放流等が毎年行われている。また、魚類等の遡上環境の改善に対する住民からの意見も寄せられている。

① 改善が必要な箇所の例（佐波川）



水の流れが集中し魚道内の流速が速い



流量が増えると魚道の横から水が溢れる



魚道直下流に土砂が堆積している

【課題】

- ・河道との段差が大きい箇所、魚道内の流速が速い箇所、魚道の横から水が溢れ落ちている箇所があり、回遊魚等の遡上が困難な状況。
- ・魚道直下流の土砂堆積により、魚類等が遡上しにくい状況になっている。

② 佐波川で確認されている回遊魚の例



アユ



ウグイ



ドウヨシノボリ



ヌマチチブ



ニホンウナギ

③ 地域との関わりが深い佐波川のアユ



金鮎祭※（防府天満宮）



幼稚園児によるアユの放流

※金鮎祭（きんあゆさい）：昌泰4年（西暦901年）に菅原道真公が防府へ立ち寄った際、世話になった礼として12尾の「黄金の鮎」を周防国分寺において国司へ贈ったといわれていることに由来する神事。防府天満宮と周防国分寺が神仏合同で行うもので、菅原道真公の没後、毎年遺徳をしのび、産業の発展、鮎の豊漁と無事故を祈願する。（写真：佐波川漁協提供）

③環境整備に対する主な意見

（令和6年7月アンケート調査結果）

いつまでもきれいな水をたたえ、魚などの生物が住みやすいような環境を維持していきたいですね。	60代男性
環境整備（改善）を行う事は、後世の人々へ、良い環境等を引き継ぐ意味でも非常に重要と考える。特にこの佐波川は市を代表する自然的な宝物なので、生物にも優しく、人々にも憩いと休らぎを与える物なので、しっかりと対応してほしい。他の河川と違い一級水系なので、特に力を入れて頑張ってください。	50代男性
外来種が増えるのは困るが在来種がより住み良い環境が増えるのは良いことと思います。	20代女性

7. 費用便益分析結果(総括表)

●費用便益比総括表

■全体事業：事業期間（平成25年（2013年）～
令和16年（2034年）予定）

【水辺整備】①新橋箇所水辺整備
②堀箇所水辺整備

【自然再生】③佐波川自然再生（魚類等の遡上環境の改善）

■残事業：事業期間（令和7年（2025年）～
令和16年（2034年）予定）

【水辺整備】①新橋箇所水辺整備
②堀箇所水辺整備

【自然再生】③佐波川自然再生（魚類等の遡上環境の改善）

佐波川総合水系環境整備事業

金額単位：百万円

項目	再評価							
	事業全体	①新橋箇所 水辺整備	②堀箇所 水辺整備	③佐波川 自然再生	残事業	①新橋箇所 水辺整備	②堀箇所 水辺整備	③佐波川 自然再生
便益 (B)	4,527	4,174	114	239	4,519	4,166	114	239
便益	4,517	4,166	113	238	4,517	4,166	113	238
残存価値	9	7	1	1	2	0	1	1
費用 (C)	1,158	907	90	160	409	158	90	160
事業費	1,001	766	85	150	252	18	85	150
維持管理費	157	141	6	10	157	141	6	10
費用便益比 (B/C)	3.9	4.6	1.3	1.5	11.1	26.3	1.3	1.5

- ・社会的割引率（4%）及び治水経済デフレータにより、現在価値化した値
- ・消費税相当分の除外が必要な項目は、税相当分を除外
- ・B/Cは小数第二位、それ以外は小数第一位で四捨五入している。
- ・合計欄は、表示桁数の関係で単純計算と一致しない場合がある。

7. 費用便益分析結果(感度分析)

- 残事業費、残工期、便益を個別に±10%変動させて、費用便益比（B/C）を算定し、感度分析を行った。

＜B／C算定ケース（基本1ケース、感度分析6ケース）＞

	基本	残事業費		残工期		便益	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+10%	-10%
全体事業 費用便益比（B/C）	3.9	3.8	4.0	3.8	4.0	4.3	3.5
残事業 費用便益比（B/C）	11.1	10.4	11.7	10.9	10.9	12.2	9.9

8. 今後の対応方針(案)

1. 再評価の視点

①事業の必要性等の視点

1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・堀箇所周辺の人口に大きな変化がみられる。

2) 事業の投資効果

- ・費用便益比 全体事業 (B/C) = 3.9 残事業 (B/C) = 11.1

3) 事業の進捗状況

- ・新橋箇所水辺整備については令和4年3月に施設整備が完了している。現在、利用状況等についてモニタリング調査中であり、引き続きモニタリング調査を実施し令和7年度に完了箇所評価を実施予定である。また、堀箇所水辺整備は令和7年度より事業着手を予定している。佐波川自然再生については、現在計画中である。

②事業の進捗の見込みの視点

- ・新橋箇所水辺整備は令和4年3月に施設整備が完了している。整備後は利用状況等についてモニタリング調査を実施しているが、コロナ禍をふまえ引き続き利用実態を把握し更なる利活用を推進することとしており事業進捗する上で支障はない。
- ・堀箇所水辺整備は、地域の河川利用に資する水辺整備の要望は強く、「とくち佐波川かわまちづくり協議会」によって関係機関や住民等の意見を取り入れながら協力体制を確立し事業を実施していく予定であり、事業進捗を図る上で支障はない。
- ・地域住民等から魚類が回遊する環境整備の意見もあり、堰管理者及び漁業関係者と事業実施にあたっての協議、調整を図りながら事業を進めていく予定であり、事業進捗を図る上で支障はない。

③コスト縮減や代替案立案の可能性

- ・水辺整備については、河道の掘削土を盛土へ流用する等工事費の縮減を行う。また、維持管理について地域住民との協力体制を構築し、コスト縮減に努める。
- ・自然再生については、河道掘削により発生する土石により、安価で効果的な魚道改善手法の活用や既設魚道の構造を極力利用する等により工事費の縮減に努める。

2. 県への意見照会結果

- ・山口県知事の意見：異存なし。引き続き、コスト縮減等を考慮の上、事業を進めていただきたい。

【今後の対応方針（原案）】（案）

- 以上より、事業の必要性、費用対効果、地元の協力体制を鑑み、**事業継続することは妥当**と考える。
- 今後の事業の実施にあたっては、引き続き地域住民等との協力体制を確立するとともに、コスト縮減に取り組み、効率的かつ効果的な事業の執行に努める。

【参考1】前回評価時との比較(全体事業)

事項	時 点		備考
	前回評価 (令和4年度再評価)	今回評価 (令和6年度再評価)	
事業諸元 及び 事業期間	【水辺整備】 ① 新橋箇所水辺整備：平成25年度～令和7年度 (国) 河道整正、高水敷整正、河川管理用通路整備 法面整正、親水護岸整備等 (市) 多目的広場整備、トイレ整備、公園整備、通路 照明改良等 ② 堀箇所水辺整備：計画中 親水護岸整備、坂路整備、階段整備、高水敷整正	【水辺整備】 ① 新橋箇所水辺整備：平成25年度～令和7年度 (国) 河道整正、高水敷整正、河川管理用通路整備 法面整正、親水護岸整備等 (市) 多目的広場整備、トイレ整備、公園整備、通路 照明改良等 ② 堀箇所水辺整備：令和7年度～令和9年度(予定) (国) 親水護岸整備、坂路整備、階段整備 高水敷整正 (市) 公園整備、トイレ施設整備、駐車場拡充等	新橋箇所水辺整備にお ける防府市の事業は河 川区域内の事業内容 堀箇所水辺整備におけ る山口市の事業は河川 区域外の事業内容
	【自然再生】 ③ 佐波川自然再生(魚類等の遡上環境の改善)：計画中 堰の段差解消 等	【自然再生】 ③ 佐波川自然再生(魚類等の遡上環境の改善)：計画中 堰の段差解消 等	
全体事業費	約8.9億円(消費税含む)	約9.2億円(消費税含む)	
総便益(B)	約42.9億円	約45.3億円	
総費用(C)	約8.5億円 (※1：消費税控除)	約11.6億円 (※1：消費税控除)	
費用便益比 (B/C)	5.0	3.9	

※1：平成28年4月5日事務連絡「費用便益分析の費用算定における消費税の取り扱いについて(通知)」に基づき消費税を控除

【参考2】費用対効果分析(①新橋箇所水辺整備)

● CVM（住民アンケートによる支払意思額の調査）

【水辺整備】新橋箇所水辺整備

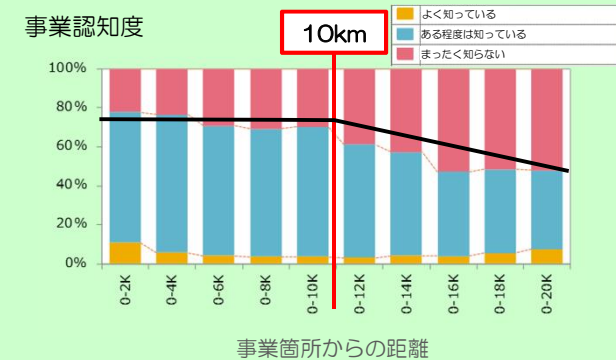
【CVM便益集計範囲】



【調査範囲の設定】

事前調査アンケート（平成29年7月）を実施した結果、事業認知度で、変化点が見られた事業箇所から10kmを便益の集計範囲とした。

事業認知度

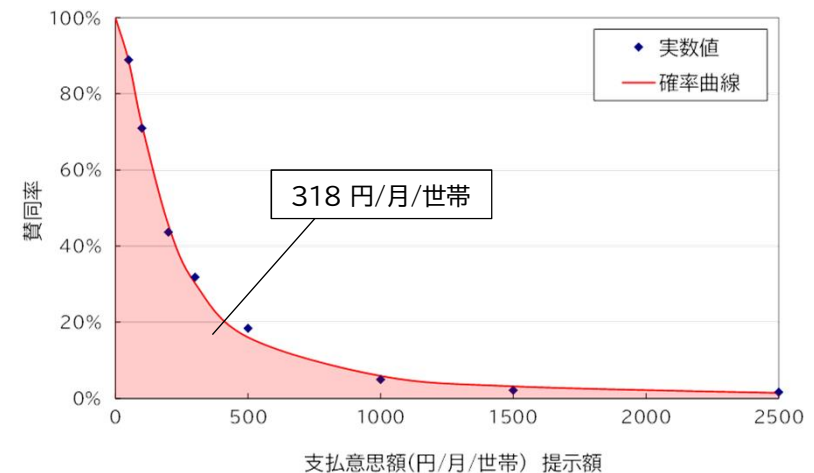


【アンケート回収率・有効回答率】

	新橋箇所水辺整備
配布数	2,200
回収数	868
回収率	39.5%
有効回答数	425
有効回答率	49.0%

【支払意思額】

	今回評価 (令和6年)
支払意思額	318 円/月/世帯
受益世帯数	52,852世帯 (令和2年国勢調査)
年便益	201.7百万円



(アンケート結果)

- ・【水辺整備】新橋箇所水辺整備
支払意思額 (WTP) = 318円/月/世帯、受益世帯数 = 52,852世帯
年便益 = 201.7百万円 (=318円/月/世帯×12ヶ月× 52,852世帯)

【参考2】費用対効果分析(②堀箇所水辺整備)

● CVM（住民アンケートによる支払意思額の調査）

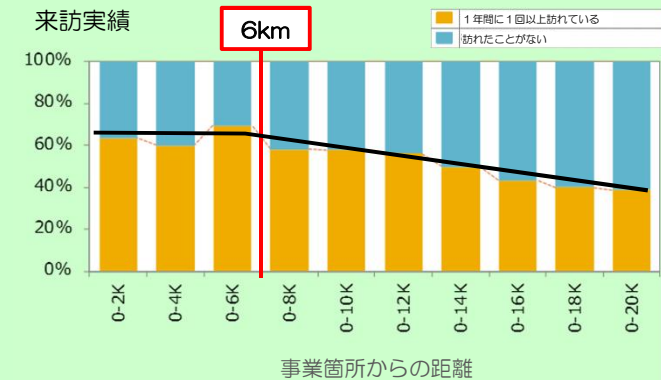
【水辺整備】堀箇所水辺整備

【CVM便益集計範囲】



【調査範囲の設定】

事前調査アンケート（平成29年7月）を実施した結果、来訪実績で、変化点が見られた事業箇所から6kmを便益の集計範囲とした。

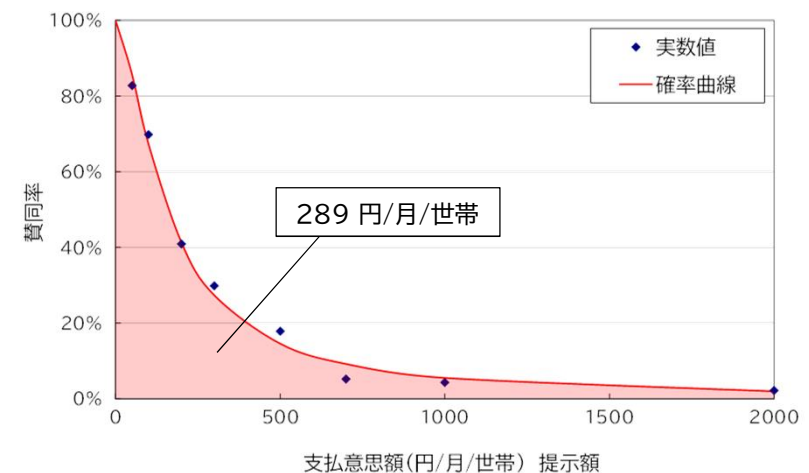


【アンケート回収率・有効回答率】

	堀箇所水辺整備
配布数	1,690
回収数	673
回収率	39.8%
有効回答数	325
有効回答率	48.3%

【支払意思額】

	今回評価 (令和6年)
支払意思額	289 円/月/世帯
受益世帯数	1,690世帯 (令和2年国勢調査)
年便益	5.9百万円



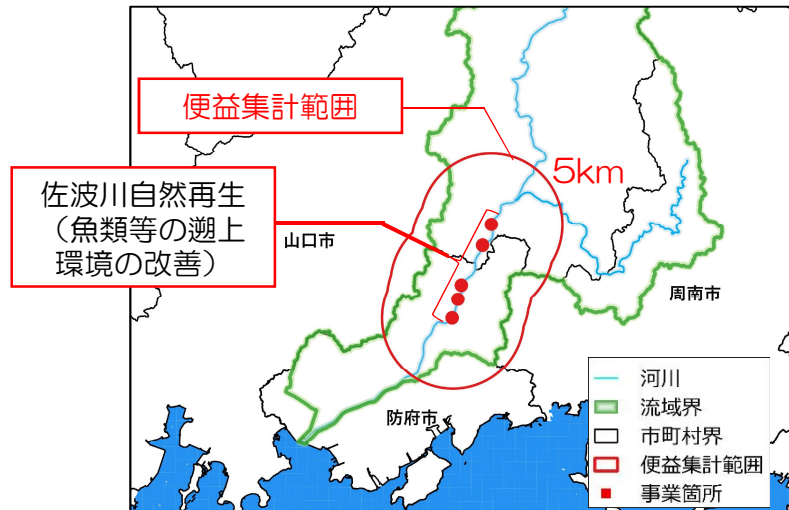
(アンケート結果)

- 【水辺整備】堀箇所水辺整備
- 支払意思額 (WTP) = 289円/月/世帯、受益世帯数 = 1,690世帯
- 年便益 = 5.9百万円 (=289円/月/世帯×12ヶ月×1,690世帯)

【参考2】費用対効果分析(③佐波川自然再生)

● CVM (住民アンケートによる支払意思額の調査)

【自然再生】佐波川自然再生（魚類等の遡上環境の改善）CVM便益集計範囲



○対象範囲：事業箇所から5km圏内

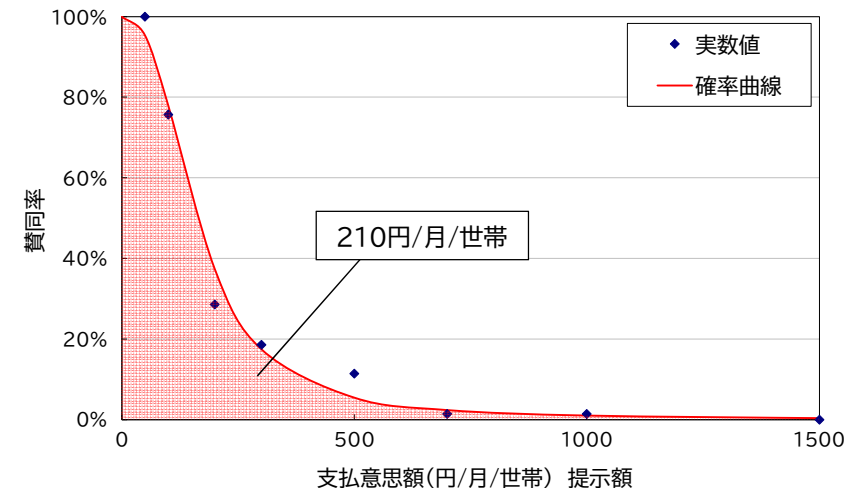
事前調査（平成22年6月）の結果より、住民の事業認知度で変化が見られた事業箇所から5kmを便益集計範囲とした。

【アンケート回収率・有効回答率】

	佐波川自然再生 (魚類等の遡上環境の改善)
配布数	308
回収数	121
回収率	39.3%
有効回答数	70
有効回答率	57.9%

【支払意思額】

	今回評価 (令和6年)
支払意思額	210 円/月/世帯
受益世帯数	6,525世帯 (令和2年国勢調査)
年便益	16.4百万円



(アンケート結果)

- ・【自然再生】 佐波川自然再生（魚類等の遡上環境の改善）
支払意思額（WTP） = 210円/月/世帯、受益世帯数 = 6,525世帯
年便益 = 16.4百万円 (=210円/月/世帯×12ヶ月×6,525世帯)